



東根の大ケヤキ：山形県東根市



環境社会報告書2018



トヨタ自動車東日本株式会社

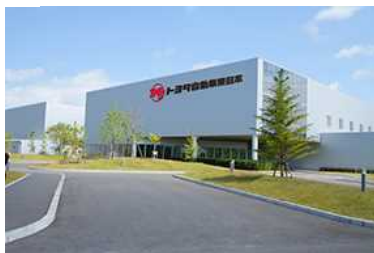
会社プロフィール

会社概要



発足	2012年7月
本社所在地	宮城県黒川郡大衡村中央平1番地
資本金	68.5億円
従業員数	約7,500名(2018年4月1日現在)
事業内容	トヨタ車の企画・研究開発・生産

事業所



本社・宮城大衡工場
〒981-3609
宮城県黒川郡大衡村中央平1番地
TEL(022)765-6000(大代表)



宮城大和工場
〒981-3408
宮城県黒川郡大和町松坂平5-1-1
TEL(022)345-6711(大代表)



岩手工場
〒029-4503
岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山1
TEL(0197)41-1120(大代表)



東富士総合センター
〒410-1198
静岡県裾野市御宿1501
TEL(055)996-2000(大代表)



東富士工場
〒410-1195
静岡県裾野市御宿1200
TEL(055)997-1111(大代表)



須山工場
〒410-1231
静岡県裾野市須山2810-1
TEL(055)965-1700

《海外拠点》

KANJI KO DO BRASIL
INDUSTRIA AUTOMOTIVA LTDA.
(ブラジル)



ソロカバ工場



サルト工場

ACSE
Auto CS Engineering Co.,Ltd.
(タイ)



<ISO14001 適用範囲>

本社・宮城大衡工場/宮城大和工場/岩手工場/東富士総合センター/東富士工場/須山工場

会社プロフィール

生産車

2017年度
グッドデザイン賞受賞



JPN TAXI



C-HR



シエンタ



カローラアクシオ



カローラフィールダー



アクア



ポルテ



スペイド



センチュリー

INDEX

会社プロフィール

会社概要・事業所・生産車・主な自動車部品 1

トップメッセージ

東北を基盤に世界一の魅力ある
コンパクトカーをお届けします ... 3

会社方針

目指す姿と会社方針 ... 4

トピックス

東北への思い ... 7

環境報告

環境への取り組みの考え方 ... 9

第6次環境取組みプラン・実績 ... 10

開発・設計 ... 11

生産 ... 13

環境保全活動 ... 15

地域社会とのコミュニケーション活動 18

子会社の取り組み ... 19

社会性報告

お客様との関わり ... 21

社会との関わり ... 23

仕入先様との関わり ... 27

従業員との関わり ... 29

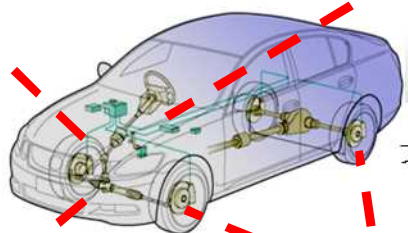
主な自動車部品



エンジン



トルクコンバーター



電子制御
ブレーキ・システム



アクスル

本報告書は2017年度（2017年4月～2018年3月）における当社単独ベースの取り組みを主体にまとめ、一部においては2018年度を含みます。また、本報告書では活動のポイントを紹介しておりますので、更に詳しく知りたい方は、本文中の[詳しくはこちら](#)をクリックいただき関連情報をご覧ください。

表紙の写真

東根の大ケヤキ：山形県東根市
東根小学校の校庭にそびえる、国指定特別天然記念物の大ケヤキ。東根の大ケヤキは、南北朝時代（1347年頃）小田島長義が築いた東根城内に既に植栽されていたものと言われる。
高さ 28m 根回り 24m
目通りで幹周は16m 直径 5m
樹齢1500年以上と推定される
昭和32年 国の特別天然記念物に指定

トップメッセージ

東北を基盤に世界一の魅力ある コンパクトカーをお届けします



取締役社長

白根武史

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は関東自動車工業・セントラル自動車・トヨタ自動車東北の3社が統合し、2012年7月にコンパクト車の専門集団として誕生いたしました。企画・開発から生産まで一貫した取組みにより、ユニットから車両までクルマ全体をまとめる力を高めていくとともに東北を中心とした地域の皆様と一体となったものづくりを通じて、世界一の魅力あるコンパクト車をお届けしていきたいと考えております。

2016年4月には、トヨタ自動車（株）がビジネスユニットを7つの製品軸に分けたカンパニー制を導入し、当社はその中のコンパクトカーを担う、Toyota Compact Car Companyの母体としてスタートしました。

コンパクトカーの分野は厳しい競争の世界ではありますが、東北を基盤に、ものづくりを通じた人づくりを進め、「東北から世界へ」の実現に邁進してまいります。

人と地球環境に優しいクルマづくり&ものづくり

当社は自動車産業に関わる企業として、地域社会から信頼されるための法令遵守の徹底と地球温暖化防止のための、温室効果ガスの大幅低減をはじめとする環境問題への取組みを経営の最重要課題の一つとして位置付けております。

2017年度は東富士工場でのJPN TAXIの生産開始にあわせ、水性塗料を使用した新塗装ラインが本格稼働を開始しました。これにより一層の環境負荷低減を実現することができました。

今後もお客様・社会・環境との調和を図りながら、一層の努力を続けてまいります。皆様のご支援、ご愛顧を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2018年7月

会社方針

目指す姿と会社方針

私たちの目指す姿 **東北を基盤に 世界一の競争力を持つ
魅力あるコンパクト車をつくる**

2012年 会社設立の際に掲げた、この「私たちの目指す姿」には

- 東北の地に根付き、地域の皆様と一体となったものづくりを続け、地域の一員として 愛される企業市民となっていきたい。
- 世界中の車両メーカーが凌ぎを削るコンパクト車だからこそ、日本のものづくりの強みである高技能と革新技術力を活かし、日本から競争力のあるクルマを産み出し続けていきたい。
- 日本で鍛えられた力を世界のコンパクト車づくりに活かし、トヨタのグローバルのコンパクト車づくりのリーダーを目指して努力していきたい。

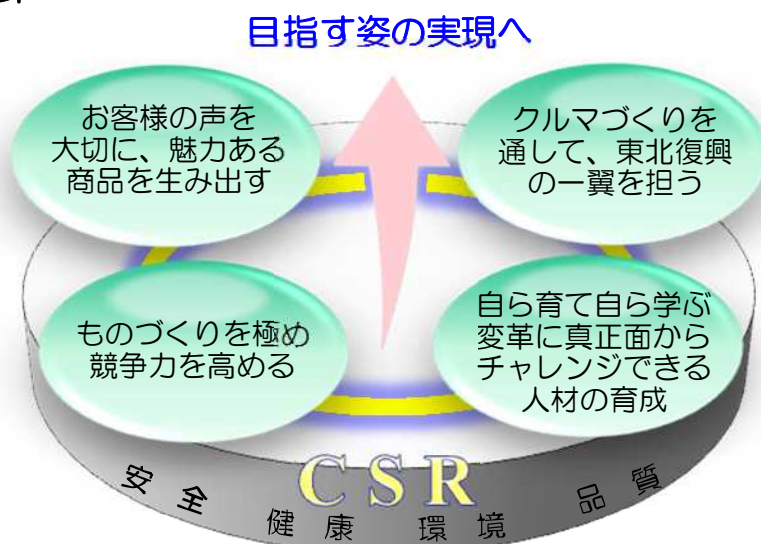
という思いを込めております。

この目指す姿の実現に向けて、2018年度の会社方針では、「『トヨタ自動車東日本 ならでは』の新たな仕事のやり方に挑戦」することを旗頭にし、「コンパクト車の専門 集団」として競争力を高める取組みを進めてまいります。

その遂行にあたりましては、従業員の安全と健康、品質、環境等の基本的な企業の社会的責任を果たしていくとともに、これまで以上に、トヨタ自動車（株）や海外事業体と一体感を高め、もっといいクルマを、もっと早く、世界中のお客様へお届けしてまいります。

そして、トヨタ国内第3の拠点「東北」を基盤とする会社として、社員一人ひとりの、責任ある行動の実践を通じて、地域の皆様からも信頼され、共に成長することで、「東北が元気」になれるよう、お客様・社会・環境との調和を図ってまいります。

2018年度会社方針



会社方針

目指す姿と会社方針

お客様の声を大切に、魅力ある商品を生み出す

JPN TAXI | 東富士より発進

2017年10月、JPN TAXI（ジャパントクシー）が発表されました。トヨタのタクシー専用車としては22年ぶりのフルモデルチェンジとなります。新型車の開発、生産準備においてはトヨタ自動車（株）と一体となり、日本が誇る「おもてなしの心」をのせて、日本を訪れる世界各国のお客様に笑顔でご利用いただくタクシーを目指し、取り組みました。

● 地域の皆様、販売店の皆様、仕入先の皆様とラインオフ式を開催（2017年11月）



● 生産を担う東富士工場の代表が“高品質なクルマづくり”への決意表明



- 常に定められた作業方法・手順に拘り、1台1台に「プロの誇りと責任」を持って、お客様に高品質のクルマをお届けします。
- 東富士工場の知恵と工夫で絶え間なき改善を実践し、誇りと自信を持って、ものづくりの発信を行っていきます。

会社方針

目指す姿と会社方針

開発・生産技術・生産の三位一体で取組んだJPN TAXIの魅力

お客様の声を大切にし、お客様の期待を超えるクルマを目指し、お子様、高齢者、車いす使用者など、様々な人に優しく快適にご利用いただくよう取組んだJPN TAXIの魅力を紹介します。

● JPN TAXI の主な魅力

もっと楽しく

- ・「日本の風景を変える」一目でタクシーと認識でき、時代や流行に左右されない外形デザイン。ニューヨークのイエローキャブやロンドンタクシーのように、街のアイコンとして「深藍（こいあい）」のボデーカラーを採用
- ・プロの仕事場として、「機能的な空間」を狙った運転席廻りは、機能性を高めた機器の配置により、運転手の負担を軽減



もっと優しく

- ・全てのお客様が乗降しやすい低床フラットフロアと大開口電動リヤスライドドア（左側のみ）の採用により、車いすのまま乗車可能な構造にするなど、様々な人に優しいユニバーサルデザインタクシー



もっと便利に快適に

- ・室内の高い静粛性により、後席の乗り心地を向上。また、衝突回避支援パッケージ「Toyota Safety Sense C」を標準装備
- ・アクセルの踏み間違い事故に対し、インテリジェントクリアランスソナーをオプション設定とするなど、安全性能も進化し、お客様へ安心・安全を提供



● お客様の声を大切にし、魅力あるクルマづくりに反映しています。

タクシーを利用する様々なお客様やタクシー運転手の方々の生の声を聞き、また、実際に使われ方を確認し、JPN TAXIを開発しました。これからも、JPN TAXIを利用されるお客様の声やご意見を聞き、魅力あるクルマづくりに取組んでまいります。

トピックス

東北への思い

東北での人づくり

当社は『東北を基盤に世界一の競争力を持つ魅力あるコンパクト車をつくる』を実現するために、「ものづくりは人づくり」の理念に基づき、地域の皆様と一体となって「ものづくり人材の育成」に取り組んでおります。今回はその中から「トヨタ東日本学園」と「異業種 地場産業の皆様との相互研鑽」の取り組みについて、紹介いたします。

トヨタ東日本学園の取り組み

トヨタ東日本学園では、将来のものづくり現場のリーダーとして活躍できる人材の育成に取り組んでいます。当社の社員だけではなく、東北のものづくり企業の皆様も入学することが可能で、人づくりを通し東北のものづくり基盤の強化に取り組んでいます。

[詳しくはこちら](#)



学科教育



技能教育

累計100人の卒業性を輩出※
(2013年度～2017年度)



※地域企業からの
入学者含む

10年後、20年後の
東北のものづくりを
支える中核人材を育成

● 卒業生の活躍状況

〔当社社員〕

宮城大衡工場 工務部設備課 村上 隆次さん（第1期生：2014年3月卒業）

- ・自動車のバンパーを成形する設備の保全業務を担当しています。
- ・設備の基礎知識が活き、メンテナンスが出来る範囲が増えています。



村上さん

- ・設備保全の基礎を学んだことで、業務への適応が早く、他人に教えることも上手い。今後、更に成長してほしい。



上司の佐々木さん

〔地域企業の方々〕

株式会社 庄内ヨロズ 上野 正人さん（第1期生：2014年3月卒業）

- ・自動車の足回り部品の溶接業務を担当しています。
- ・設備の基礎や仲間とのコミュニケーションが大変役立っています。



上野さん

- ・ものづくりの基礎・基本を業務に活かして取り組み、サブリーダーとして活躍しています。今後、職場を牽引する人材になってほしい。



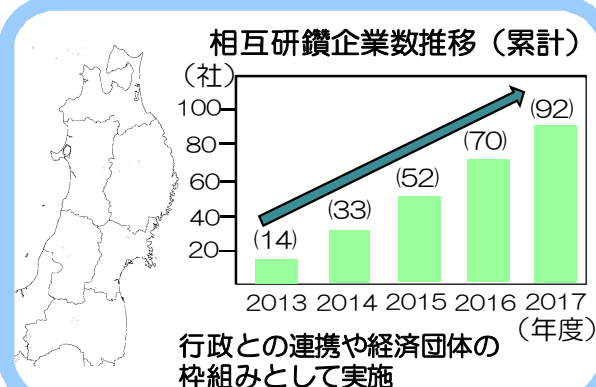
上司の成田さん

トピックス

東北への思い

異業種 地場産業の皆様との相互研鑽

当社は東北の企業として地域に広く深く根を張るために、自動車関連企業のみならず、食品や水産加工などの地場産業の皆様とも、ものづくりを通じた相互研鑽に取組み、『“教え、教えられる”風土』醸成による相互の人材育成と改善の輪を広げる取組みを推進しております。



相互研鑽



トヨタ自動車東日本

- ・外で学び、中で活かす
- ・人材育成

● 地場産業の皆様との取組み事例

日南工業株式会社（秋田県にかほ市：味噌、醤油等の製造）

《お客様の声》



- ・同じ味噌なのに微妙に色が違うことがあるのよ。



《製造現場の声》

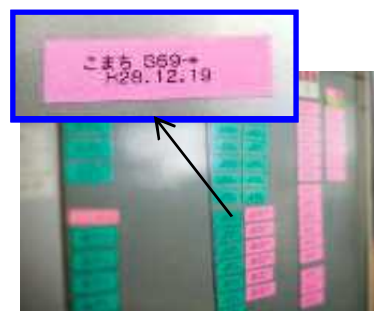


- ・大豆に由来する色味は季節等で変化することがあるんです。

同じ品質の味噌をいつでも誰でも造れることを目指して！
（お客様に満足していただくために）

【取組み内容】

	従 来	改善後
混合作業	色味を決める「赤と白」の混合作業を職人の勘やコツで実施	色調測定の安定化を図り、「赤と白」の混合比を決定することで“勘”を数値で表現
味噌樽の管理	貯蔵庫の中の味噌樽の管理は職人の記憶のみ	貯蔵庫の中身を管理板に表示して、誰でもわかる様に可視化



日南工業は、秋田県にかほ市で味噌・醤油醸造を始めて70余年となります。これもひとえに当社製品をご愛顧くださる皆様のおかげと日々感謝いたしております。

今回の活動では積極的に現場に足を運ぶなど、従業員の学びが多かったと思います。ここ秋田のすばらしい環境・素材を活用し、醸造技術を守り育てながら、多くの人に美味しさをお届けする、それが私たちの使命です。



（細谷社長）

環境への取組みの考え方

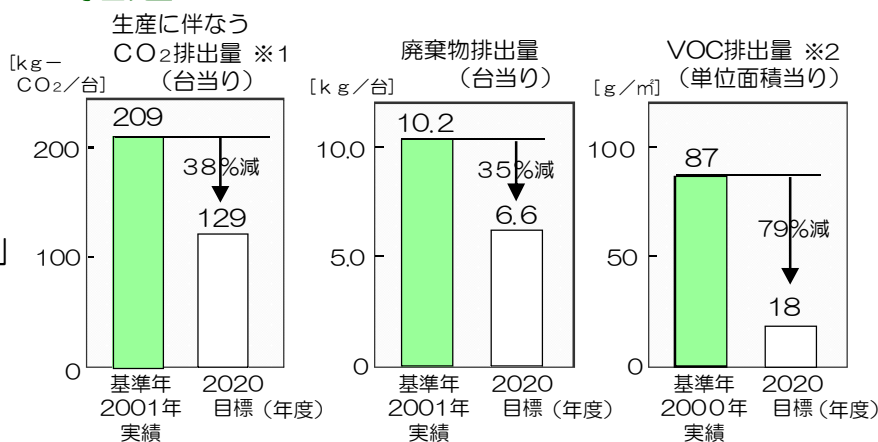
当社はトヨタ自動車（株）の「トヨタ地球環境憲章」を受け、「環境に関する取組みの基本方針」を2012年7月に制定し、右記4つの基本方針のもとで活動しております。また、取組み体制は全社と各事業所の環境会議を有機的に結合させ、さらに連結子会社とも連携し、環境保全活動を推進しております。

環境に関する取組みの基本方針

1. 豊かな21世紀社会への貢献
2. 環境技術の追求
3. 自主的な取組み
4. 社会との連携・協力

第6次環境取組みプランの推進

当社は2020年度までの中期環境取組み計画＝第6次環境取組みプランを策定しております。本プランでは「低炭素社会」「循環型社会」「環境保全と自然共生社会」の構築を3本柱にして活動を推進しております。



※1 ボデー・塗装・組立工程が対象

※2 Volatile Organic Compounds（揮発性有機化合物）の略で、塗料やシンナー等に含まれるトルエン・キシレンなどが代表的な物質

トヨタ環境チャレンジ2050の実現に向けて

トヨタ自動車（株）が2015年10月に発表した「トヨタ環境チャレンジ2050」の実現に向けて、長期的な取組みに着手しています。



世界各国、各企業が積極的に推進しているCO₂排出量低減を受けた、「2050年工場CO₂ゼロチャレンジ」の実現に向けて重点推進しています。定期的に関係部門、ものづくり研鑽部、工場の関係者が参集。トヨタグループ各社とも連携しながら、革新技术を計画的に導入する検討を進めています。



関係者が一同に集まり、革新技术導入の進め方を議論して活動推進

第6次環境取組みプラン・実績

「第6次環境取組みプラン」の2年目に当たる2017年度は、全社が一丸となった取組みの推進により、全ての項目で目標を達成することができました。

目標（2017年度）		目標達成状況 目標 実績	主な活動内容	関連頁
低炭素社会の構築	開発・設計 開発車種毎に質量目標設定	全車種目標達成	● 開発車種毎に質量目標達成活動を推進	P11 P12
	生産 CO ₂ 排出量 〔台当たり排出量〕 kg-CO ₂ /台 〔総量〕 千t-CO ₂	135 128 100 0 135 131 100 0	● CO ₂ 低減アイテムの横展と日常改善の推進 ・ 長期連休中の特別高圧変圧器停止 ・ 生産ライン非稼働時の設備電源OFF ・ 塗装空調設備の運転条件適正化	P13
	物流 CO ₂ 排出量 〔総量〕 千t-CO ₂	9.8 9.1 10 0	● 積載効率向上や混載化の推進	—
循環型社会の構築	開発・設計 リサイクル率、リサイクル解体時間の目標設定	全車種目標達成	● リサイクル設計の推進 （解体容易な構造の開発およびリサイクルしやすい素材の採用）	P12
	生産 廃棄物 〔台当たり発生量〕 Kg/台	6.8 6.7 10 0	● リサイクルと発生源対策の推進 ・ 廃プラスチックのリサイクル推進 ・ 塗装工程で発生する汚泥※1の脱水化 ※1 ボデーの塗装過程で発生する塗料が固化されたもの	P14
	物流 梱包資材使用量 〔総量〕 t	790 750 500 0	● 梱包材の材質変更によるリサイクル推進等	—
	生産 水使用量 〔台当たり使用量〕 m ³ /台	2.0 1.6 2 0	● 水の再利用や節水活動の推進	—
環境保全と自然共生社会の構築	開発・設計 開発車種毎に環境負荷物質の目標設定	全車種目標達成	● 開発車種毎に低減目標を設定し活動を推進 ● 欧州REACH規則※2に対応した着実な取組み ※2 REACH (Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals) 人の健康や環境の保護のために化学物質とその使用を管理する欧州議会及び欧州理事会規則	—
	生産 VOC※3 〔ボデー塗装面積当たりの排出量〕 g/m ²	18.6 17.5 20 0	● 塗装の塗着効率向上 ● 洗浄シンナーの使用量低減・回収率向上 および新規塗料への切り替え等を推進 ※3 Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物) の略で、塗料やシンナー等に含まれるトルエン・キシレンなどが代表的な物質	—
	● 社会貢献活動の推進	各種計画に基づき推進	● 事業所を置く地域での各種支援活動 ● 事業所を置く地域での交通安全啓蒙と清掃活動の実施 ● 環境諸団体の環境保護活動への協力	P23~26
	● 環境マネジメントの強化、推進	環境違反・苦情：ゼロ	● 新たに導入した設備の点検	P15
	● ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	各種計画に基づき推進	● 連結子会社と連携した環境違反・苦情防止活動とCO ₂ 等の環境負荷低減活動の推進 ● グリーン調達ガイドラインに基づく活動と地域と一体となったものづくりの推進	P19~20 P27~28
環境マネジメント	● 地域の特徴を活かした環境保全活動の推進	各種計画に基づき推進	● 「自然を活用し自然と調和する工場づくり」の推進	P16~17
	● 環境教育活動の充実と推進	教育計画に基づき推進	● 全従業員、新入社員、新任環境保全推進者に対し、計画通り実施	—
	● 環境情報の積極的な開示 ● コミュニケーション活動充実	各種計画に基づき推進	● 環境社会報告書の計画的な発行・情報開示と各事業所毎の環境コミュニケーション報告会開催	P18

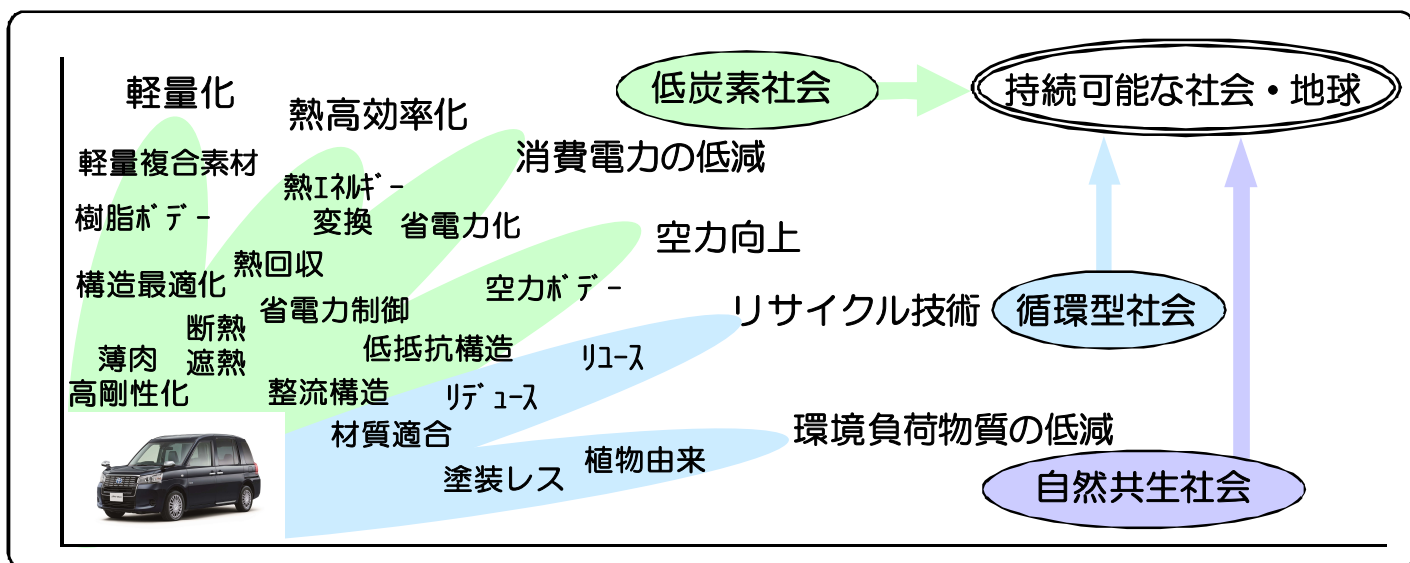
開発・設計

常に環境との調和と低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現を目指して、製品開発や技術開発に取り組んでおります。当社が開発し生産する製品の環境負荷が将来にわたり少なくなる様に、LCA※¹（ライフサイクルアセスメント）の視点に立ち、トヨタ自動車（株）と一体で開発・生産からお客様のご使用・廃棄に至るすべての段階で環境に及ぼす影響を検討し、提供させていただいております。

※¹ クルマの走行段階だけでなく、生産から廃棄までの全ライフサイクルで排出するCO₂やその他の環境負荷の総量を評価し、低減する取組み

環境保全に対する技術の取組み

開発・生産する製品の環境負荷を低減するために、様々な角度から技術開発に取り組んでおり、その一端を紹介します。



JPN TAXIへの採用事例

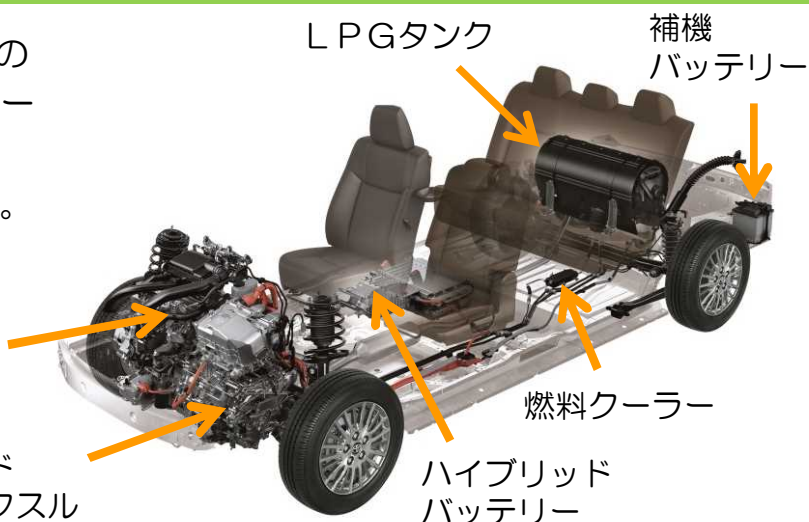
開発・設計の考え方に基づいて取組み、JPN TAXIに採用された主な環境負荷低減事例を紹介します。

【CO₂排出量低減事例】LPG-ハイブリッドシステム

- 温室効果ガスであるCO₂排出量の低減を目指して、新開発のLPG-ハイブリッドシステムを採用し、徹底した燃費の向上を図りました。

新開発1.5L
LPG-ハイブリッド
専用エンジン

ハイブリッド
トランスアクスル



開発・設計

【CO₂排出量低減事例】ヘッドランプ、リヤコンビネーションランプ



ボデー設計部
寺井 弘さん

- ・LEDを光源とする事により、長寿命で省電力のランプを実現。これにより、燃費の向上と排出ガスの低減を図りました。
- ・ヘッドランプは、プロジェクターレンズの樹脂化により、軽量化を図りました。



【廃棄物低減事例】フロント・リヤバンパー（3分割構造）



内装設計部
秋元 和哉さん

- ・市場での衝突形態に着目し、デザイン性を考慮しながらフロント、リヤともに、サイド部分のみの交換が可能な3分割構造バンパーを採用し、部品交換費と廃棄物の低減を図りました。



フロントバンパー

サイド部分（→）のみの交換が可能



リヤバンパー

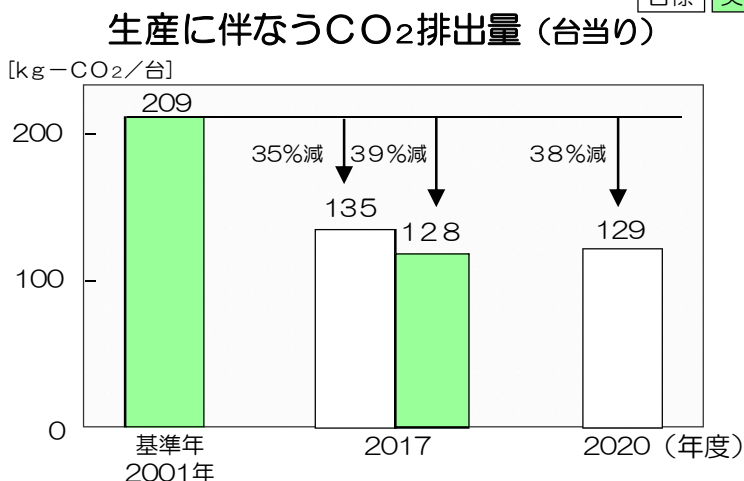
生産

低炭素社会の構築に向け、生産ラインの省エネルギー化、徹底したムダの排除や生産性向上に取り組んでおります。

生産工程のCO₂排出量の低減

目標 実績

生産活動に伴うCO₂排出量を低減するために、設備の運転条件見直し、生産ラインの非稼働時の待機電力低減等、日常での改善活動に取り組み、2017年度目標を達成しました。



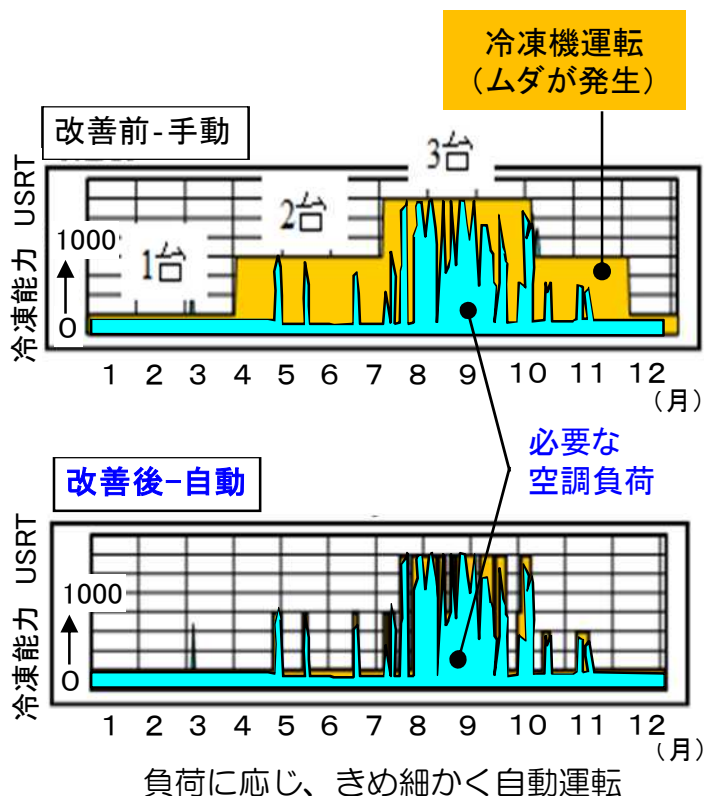
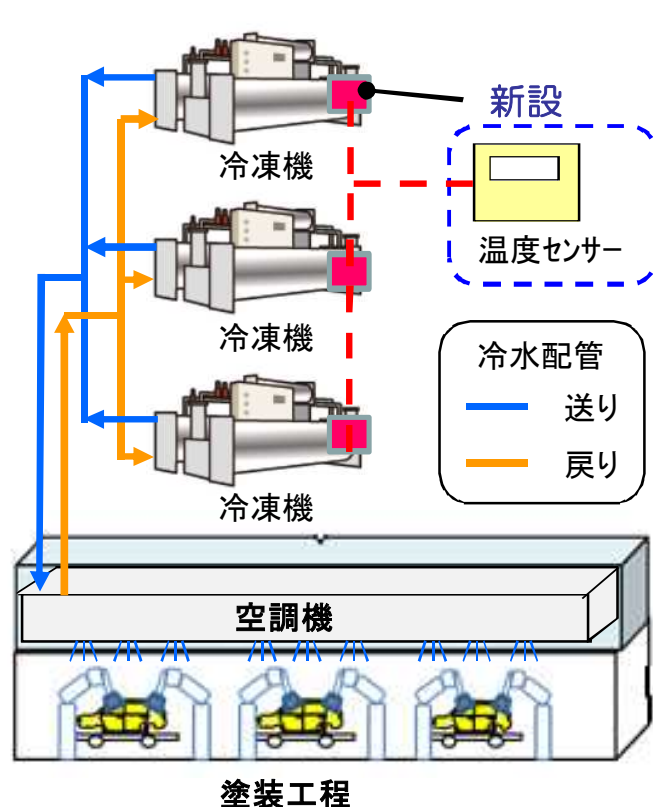
省エネルギーへの取り組み

2017年度は生産活動で多くのエネルギーを消費している塗装工程の設備に着目し、運転条件の適正化に取り組みました。

塗装工程 冷凍機の効率的な台数制御

（東富士工場）

温度センサーを追加し、季節や時刻で変動する空調負荷に合せ、冷凍機を自動で効率的に制御



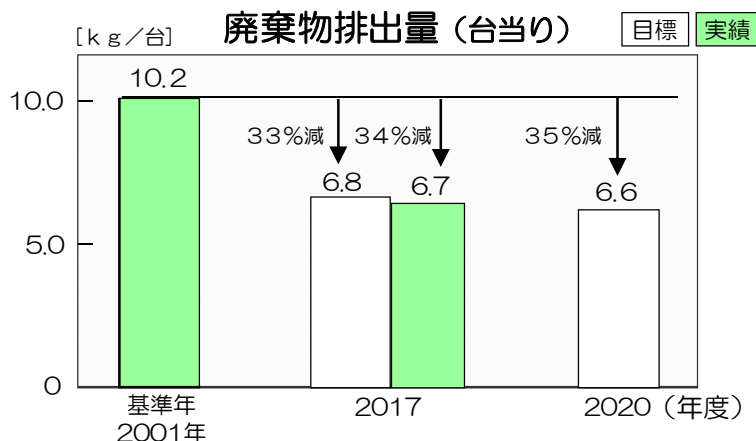
生産

循環型社会の構築に向け、生産段階における廃棄物発生量の減量やリユース・リサイクルを通じた資源の有効利用、水使用量の低減等に取り組んでおります。

廃棄物低減活動

生産活動に伴う廃棄物を低減するために、従来から取り組んでいる塗装工程で発生する汚泥※¹の脱水化等に加え、2016年度からは部品梱包材のリサイクル化に取り組みました。この結果、2017年度目標を達成しました。

※¹ ボデーの塗装過程で発生する塗料が固形化されたもの

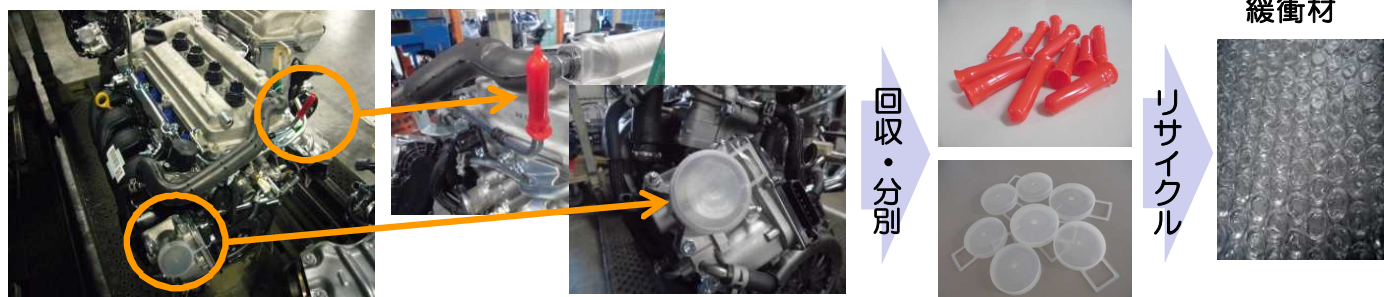


部品梱包材のリサイクル化推進

（宮城大衡工場）

自動車用部品は、運搬や保管時の品質確保のためにプラスチック製キャップや梱包材でカバーされて納入されます。このキャップや梱包材について安易に廃棄物とせず、1点1点のリサイクル可否を検討し、資源の有効活用を図っています。

（エンジンの例）プラスチック製キャップ

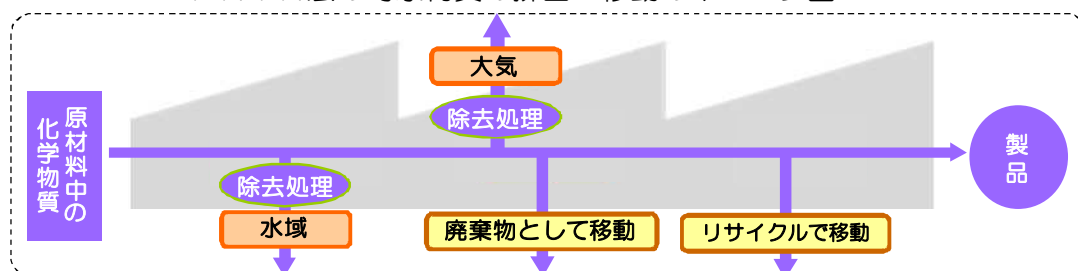


P R T R対象物質の低減

P R T R法※²対象物質低減のため、塗着効率の向上や洗浄シンナーの使用量低減に取り組んでいます。また、同法に基づき、対象物質の使用量届出を実施しています。

※² P R T R（環境汚染物質排出・移動登録制度）とはPollutant Release and Transfer Registerの略で、環境リスクを持つ有害な化学物質を企業・行政・住民等が協力し全体で低減する狙いから、企業がその物質の排出量や移動量を把握・行政へ届出し、行政が公表する制度

＜P R T R法の対象物質の排出・移動のイメージ図＞



環境保全活動

地域社会から信頼されるための「環境法令の遵守」と、クルマづくりを通じた住みよい地球と豊かな社会づくりに寄与するため、地域の特徴を活かした「自然を活用し自然と調和する工場づくり」に地域と連携し取り組んでおります。

環境リスクに対する未然防止活動

2017年度は生産活動で使用する既存設備に加えて、新たに導入した設備の点検や作業方法にも着眼し確認するなど、地域の皆様に絶対ご迷惑をかけない様に取り組んでいます。

新たに導入した主な設備の点検（東富士工場）

東富士工場ではJPN TAXIの生産に伴い、導入した設備の運転開始前点検を設備計画部署・運用部署・工場管理部署が一体となって実施しています。

日常管理項目や緊急時の対応手順を明確にし、環境リスクに対する未然防止を図っています。この取組みはJPN TAXI量産開始以降も継続的に実施しています。

〔ボデー（溶接）工程の取組み事例〕

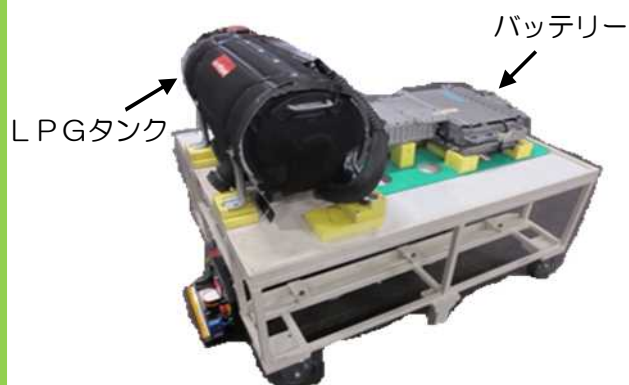


新設したJPN TAXI足回り部品の切削、研磨、洗浄設備



新設備の点検（洗浄油の漏洩防止）

〔組立工程の取組み事例〕



JPN TAXI用に開発したLPGタンクとハイブリッド用バッテリーの自動搬送機



工場長を交えて設備の運転管理方法や緊急時の対応方法を確認

環境保全活動

地域社会・自然と調和する工場づくり

宮城大衡工場、岩手工場の場所は、元々は自然豊かな森でした。以前の森に少しでも戻ることを願って、従業員とその家族が拾い集めたどんぐりを工場内で苗木まで育て、植樹会を毎年開催しています。

私たちは10年後、20年後、様々な種類の樹木に囲まれた自然豊かな工場づくりを目指して取り組んでいます。

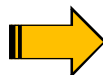
森づくり

<コンセプト>

自分たちの手作りでどんぐりから苗木を育てることを通じて、自然を大切にする心、思いやりや、やさしさを持つことで従業員の心の木（気）も育てる



どんぐり拾いと苗取り



苗木の育成



成長した樹木



植樹会

本社・宮城大衡工場内の植樹場所



植樹場所

岩手工場内の植樹場所



環境保全活動

地域と連携した美化活動

従業員による工場周辺道路・歩道の定期的な清掃と地域の皆様と連携した美化活動を積極的に実施しています。

工場周辺道路・歩道の清掃活動



宮城大衡工場周辺



岩手工場周辺



宮城大和工場周辺



「ふるさと守りたい清掃活動」参加者（岩手）

裾野市 パノラマ遊花の里 造園活動

「裾野市パノラマロードを花でいっぱいにする会」の活動へ参画しています。



コスモスの種まき



花畑の雑草取り



造園活動参加者（裾野）

地域社会とのコミュニケーション活動

良き企業市民として、社会と調和した成長を目指し、地域の皆様とコミュニケーションを図りながら、環境保全活動を推進しております。

宮城地区

大和・大衡エコフォーラム（仙台北部工業団地各企業）

仙台北部工業団地の各企業との情報交換を目的に「大和・大衡エコフォーラム」を年4回開催しています。それらを通じて、省エネルギーや廃棄物低減等の環境保全活動を推進しました。



宮城大衡工場・岩手工場・東富士工場

環境コミュニケーション報告会

地域住民の皆様との情報共有や共通認識を主な目的に、宮城大衡工場、岩手工場、東富士工場では工場周辺の住民の方々や県内企業、行政の皆様をお招きし、環境報告会を開催しています。当社の環境に関する取組みを説明し、ご意見を頂きました。

排水処理場の紹介



（宮城大衡工場）



（東富士工場）

地域住民や行政機関の皆様との意見交換



（岩手工場）

東富士地区

狩野川水系水質保全協議会

東富士総合センターと東富士工場からの排水は、支流の久保川、佐野川、狩野川を経由し駿河湾に流れ込みます。きれいな川を維持するための地域保全活動を行政や近隣企業の皆様と共に行いました。

アマゴの放流（地域の園児も参加）



河川清掃参加者



子会社の取組み

第6次環境取組みプランでは、トヨタ自動車東日本と連結子会社各社が環境に関する取組み項目と目標を共有しながら、一体となって活動を推進しております。

今回は岩手地区にて溶接部品や足回り部品を生産している(株)ケー・アイ・ケーの取組みをご紹介します。

🌿 (株)ケー・アイ・ケーの取組み

1. 環境の取組み

緑豊かな岩手で生産活動を行う企業として、地域環境との調和を経営の重要課題の一つと認識し、企業活動の全域で一人ひとりが環境へのやさしさを優先し、行動しています。

(株)ケー・アイ・ケー 本社・北上工場



【環境方針】

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1) 環境法規制の遵守と環境汚染の未然防止 | 4) 環境管理システムの充実と継続的な改善実施 |
| 2) ゼロエミッションと資源エネルギーの効率化 | 5) 環境目的・目標を設定し、定期的な改正実施 |
| 3) 一人ひとりが自覚と責任を持った活動推進 | |

2. 主な活動内容

🍀 本来業務での改善活動（CO₂排出量・廃棄物の低減活動）

生産工場では「本来業務での改善活動」と称した活動を推進し、「環境会議」「課別収益」「改善提案」「工程確認会」などの会議体を通じ、全員参加で廃棄物・CO₂排出量の低減を図っています。

- ・ 会議は会議室の中だけでなく
現地現物確認



- ・ 省エネ型設備による自動化推進
(軽量電動ガン、インバーター溶接導入)



電力消費従来比△52%

子会社の取組み

3. 改善事例

- ・当社で素材のパイプを曲げ、切断しているアクア マフラー部品の加工による廃棄物を低減
- ・1本ごとに加工し、切断した端部を廃棄していましたが、2本分を同時加工して切断することで、廃棄部分をなくすことができました

 曲げのため設備に固定する部分

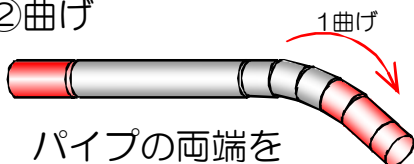


〔改善前〕

①素材パイプ

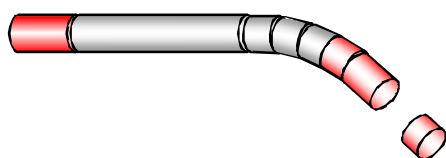


②曲げ



パイプの両端を固定して曲げるため、固定していた部分は廃棄

③切断



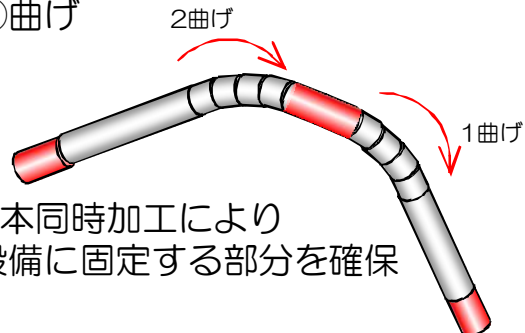
不要なため切断、廃棄

〔改善後〕

①素材パイプ

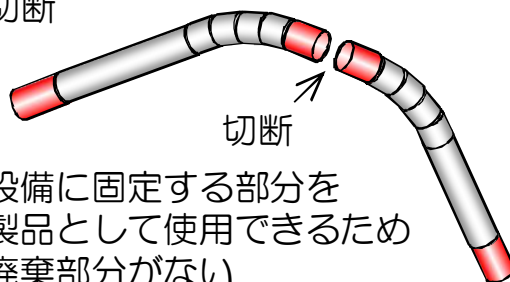


②曲げ



2本同時加工により設備に固定する部分を確保

③切断



設備に固定する部分を製品として使用できるため廃棄部分がない

🌿 環境事故防止・美化活動

- ◆環境事故 未然防止活動：水質汚濁などの環境リスクへの対策を推進
- ◆地域清掃・美化運動・ボランティア活動への参加

排水処理水質管理の強化
(管理項目にパックテスト追加)



地域清掃・美化運動に参加



2009年より北上川清掃ボランティアや地元の祭りに参加



お客様との関わり

品質保証

「お客様第一」「品質第一」のクルマづくりを実践し、お客様の期待に応える「世界一の魅力あるコンパクト車」をお届けすることを目指しております。そのために、クルマづくりに携わる一人ひとりが品質最優先の意識を持ち改善に努め、全社で連携してお客様の安心と安全、満足度の向上に努めております。

「お客様第一」の風土づくり

全社員への「お客様第一」「品質第一」の意識浸透の仕組みとして、品質教育を実施しています。また、トヨタ自動車（株）と連携した品質講話会、品質事例展示会等を定期的に行い、品質に対する問題意識を共有しながら各業務に取り組んでいます。

● 品質教育

毎月11日を『品質教育の日』と定め、全工程員が参加し、品質知識の向上を図るとともに、やりにくい作業の吸い上げと改善を図っています。



品質知識を学ぶ

（工程員の声）
お客様へ高品質な車を提供するため、標準作業を必ず守ります。
また、やりにくい作業があれば、すぐ上司へ報告します。



● 品質講話会

お客様の生の声を聴き、品質意識の向上と業務の改善につなげています。



お客様と直接対応している、トヨタ自動車（株）の部署より講師を招き、お客様の声を紹介していただいています。



● 品質事例展示会

品質向上活動事例を全社で共有・横展し、高品質なクルマづくりに反映しています



工場展示会の様子



総合センター展示会の様子



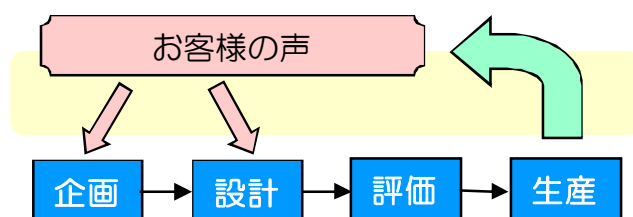
お客様との関わり

人に優しい製品づくり

福祉車両、福祉機器の開発

- 「すべてのお客様に快適な移動の自由を」「お客様の幸せな暮らしのために少しでもお役に立つこと」これを合言葉に、電動車いすや福祉車両などを開発しております。
- 福祉施設や展示会でお伺いしたお客様の声を、製品開発に活かしております。

お客様の声を製品開発へ反映



当社で生産している福祉車両・機器

	使用目的	仕様
福祉車両・機器	助手席への移乗補助	回転シート／昇降回転シート
	後席への移乗補助	回転シート／昇降回転シート
	車いすのまま乗降	リヤスロープ
	車いすを収納	車いす収納装置
	歩行補助	4WD電動車いす

● お客様の声を収集



【バリアフリー2017（大阪）】
スピード車いす収納装置

● 商品の説明



【ウェルフェア2017（名古屋）】
スピード車いす収納装置



【国際福祉機器展2017（東京）】
シエンタ車いす仕様車（スロープタイプ）



【体験試乗（福島あづま運動総合公園）】
4WD電動車いす「Patrafour」

社会性報告

社会との関わり

社会貢献活動

地域社会とのコミュニケーションや地域における環境保全活動を通じて、地域社会から信頼される企業を目指し取り組んでおります。

工場見学の受入れ

小学5年生の社会科見学や行政・各種団体等の工場見학을積極的に受入れています。2017年度は本社・宮城大衡、東富士、岩手の3工場合わせて約53,000人のお客様にご来工いただきました。①詳しくはこちら



結[YUI]ギャラリー

地域の皆様と当社を結びつける空間として、施設名称を「結ギャラリー」と命名。当社の「ものづくり」を目で見て触れて体感いただける展示内容となっています。①詳しくはこちら



本社・宮城大衡 結[YUI]ギャラリー



岩手 結[YUI]ギャラリー

千年希望の丘 植樹活動への参加（宮城県岩沼市）



地域イベントへの協力



東北こども博への出展（仙台大学）



いしのまき復興マラソンへの
車両協賛



東北・みやぎ復興マラソンへの
イベント協力

社会性報告

社会との関わり

■ 地元支援活動

東北にある企業として沿岸地域（主に岩手県）の支援を2011年より継続しており、仮設住宅からの引っ越し作業や家屋の修繕・清掃等のお手伝いを行いました。

大槌町・釜石市・陸前高田市・大船渡市 を中心に支援活動を継続的に実施



地元の支援活動に参加した従業員



社会との関わり

■ 南三陸町復興支援活動

農業支援・漁業支援を中心に、毎月多くの従業員が活動しています。これまでに延べ772人の従業員が参加しました。



南三陸町で農業支援活動（ネギ畑のうね上げ作業）



漁業支援活動



■ 科学のびっくり箱！なぜなにレクチャーへの参画（山形県山形市）

山形県との共催で工作教室を開催。小学校高学年を対象に、トヨタ自動車技術会講師による「科学のびっくり箱！なぜなにレクチャー」を実施しました。



■ トヨタ・マスター・プレイヤーズ、ウィーンコンサートへ高校生を招待

トヨタ自動車（株）は復興支援の一環として盛岡にてコンサートを開催しました。当社もこれに協力し、高校生（吹奏楽部員）延べ1,066人を招待しました。また、演奏者が地元小学校や中学校を訪問し、ふれあいコンサートを開催しました。



コンサートへの招待校（代表者）



ふれあいコンサート 演奏の様子



コントラバスの音出しに挑戦

社会性報告

社会との関わり

交通安全への取り組み

自動車の製造に携わる企業として地域の皆様や行政の方々と連携を図りながら、社内外において、積極的に交通事故防止活動を推進しております。

事業所周辺での交通安全呼びかけ



地域と企業一体の取り組み

ゆうゆう保育園の取り組み

地域の就業環境向上と雇用促進の一助となることを期待し、近隣企業従業員や地域住民にもご利用いただける企業内保育所（みやぎ、いわて）を県・町・村との共同検討により開設しました。[⑤ 詳しくはこちら](#)



保育園外観



保育の様子

社会性報告

仕入先様との関わり

「トヨタ基本理念」、「調達基本方針」に基づきオープンでフェアな取引を推進し、仕入先の皆様との相互信頼関係による、共存共栄を目指した調達活動を推進しています。また、グリーン調達ガイドラインに基づく取組みを仕入先の皆様とともに実践し、環境保全活動に努めています。

【トヨタ基本理念より抜粋】

- ・内外の法およびその精神を遵守し、オープンでフェアな企業活動を通じて、国際社会から信頼される企業市民を目指す
- ・開かれた取引関係を基本に、互いに研究と創造に努め、長期安定的な成長と共存共栄を目指す

【調達基本方針】

- ・オープンドアポリシーに基づく公正な競争
- ・相互信頼に基づく相互繁栄
- ・良き企業市民を目指した現地化の推進

仕入先様との活動

2012年に東北現調化センターを設立し、1次仕入先の皆様と連携した分解展示会や部品説明会を開催しました。また、生産準備や品質向上活動等を通じて現場ベースのコミュニケーションを図り、仕入先様との繋がりを強くしてきました。当社の取組みは毎年開催する仕入先総会で説明し、ご理解とご協力をいただいています。



2018年度 仕入先総会

TMEJ協力会の活動

TMEJ協力会は下記2点を目的に2013年3月に発足し、活動を推進しています。

- 当社の方向性と当社・協力会双方の課題認識を共有化する。
- 当社の使命の一つである、東北に根差した生産活動と復興に貢献するため、東北地場企業とのネットワークづくりと相互研鑽を図る。

実務者勉強会の開催

2017年11月、会員各社の部長クラスを対象として、当社岩手工場、並びに岩手県の伝統工芸品である南部鉄器製造工場の見学を行い、「からくり」や「順序生産／順序納入」の取組み、「東北のものづくり」について学びました。



2017年度 実務者勉強会

定期総会の開催

2018年3月、当社仕入先総会と合同で開催し、会員各社の代表者出席のもと、事業計画や予算、役員体制の審議が行われました。



2018年度 定期総会

仕入先様との関わり

東北部会の活動

東北部会はTMEJ協会の部会活動として、下記2点を目的に発足しました。

- 東北地場企業と当社のネットワークづくりにより、課題認識を共有する。
- 相互研鑽でレベルアップを図り、東北のものづくり競争力を向上させる。

グループ活動の推進

東北部会内でグループを編成し、「安全」「品質」「現場改善」をテーマとしてQC手法を用いた改善活動に取り組んでいます。2017年度はQCサークル本部より、「体験事例優秀賞」を受賞するなど、着実にレベルアップが図られています。



グループ活動の狙いと進め方



2017年度 グループ活動 成果報告会



仕入先様と改善事例の共有

東北における競争力強化

当社生産ライン（車両）の着工順序情報を用いて、仕入先様（部品）の生産を同期させる「順序生産／順序納入活動」を2013年より進めています。この活動では徹底した在庫低減、スペース低減などの効果を狙い、仕入先の皆様と当社の双方に嬉しさがある姿を目指しています。今後も「東北ならではのものづくり」を極め、仕入先の皆様とともに競争力強化を進めていきます。



仕入先様との順序生産／順序納入活動

従業員との関わり

安全

「安全・健康は、全てにおいて優先し取組む」「何人たりとも重大災害を発生させない」の考えの下、全社を挙げて安全活動に取り組んでおります。

安全の取組み

● 取組みの考え方

災害ゼロに向けて「安全な人づくり」と「安全な場づくり」を推進しています。

「安全な人づくり」の目指す姿

皆が当事者意識と自分の身は自分で守る意識を持ち、ルール遵守と安全行動を常に率先垂範

「安全な場づくり」の目指す姿

5S※1が整い、災害や不安全行動の原因を作らず、安心して気持ちよく働ける職場環境

※1 5Sとは 整理・整頓・清掃・清潔・躰をいう

「安全優良職長厚生労働大臣顕彰」を受賞 (2018年1月15日)



厚生労働省で定める職長経験や安全成績等の基準を満たし、活発な安全活動を推進している監督者の中から候補者の中から毎年選考・推薦

● 安全文化の構築に向けて

毎年1月13日の「安全を誓う日」をはじめ、安全文化の構築を日々進めています。



各職場で管理者から過去災害を伝承 朝礼で作業前KYや日めくり安全唱和 各職場合同で作業観察・意見交換

● 安全な人づくり

上位職者の率先垂範の下、一人ひとりのルール遵守と安全行動を進めています。



災害の怖さを学ぶ擬似体験教育

● 安全な場づくり

全員参加の5S活動や快適な作業環境づくりを進めています。



職制から工程員まで全員で5S

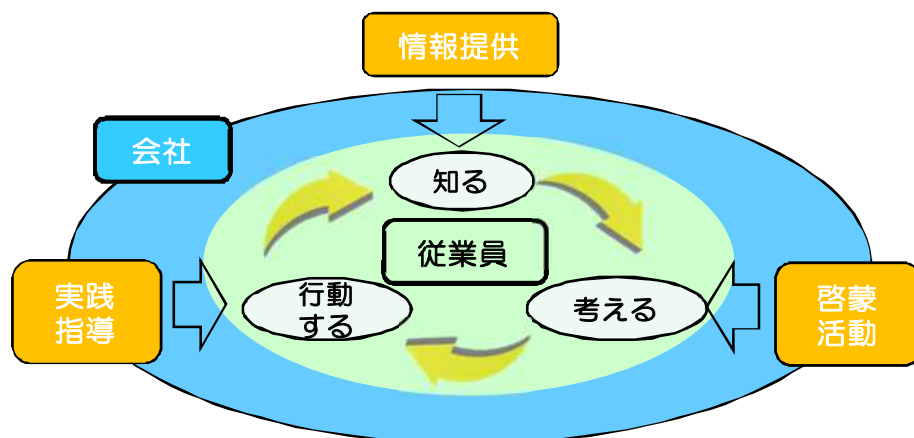
従業員との関わり

健康

心と体の健康づくりの取組み

健康管理活動

従業員一人ひとりが健康づくりを実践していけるよう、心身の健康維持・増進につながる施策を推進しております。



- BM I 低減活動^{※1}
運動習慣づけ推進活動による各職場の取組み

※1 〔体格指数〕 体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)



卓球大会



ソフトボール大会



家族で楽しめる体力測定会
(駅伝大会での健康ブース)

- 喫煙率低減活動
禁煙達成に向けた環境作りを推進



禁煙講話会



禁煙デーの声かけ



世界禁煙デーイベント
(健康宣言・肺年齢測定)

従業員との関わり

人材育成

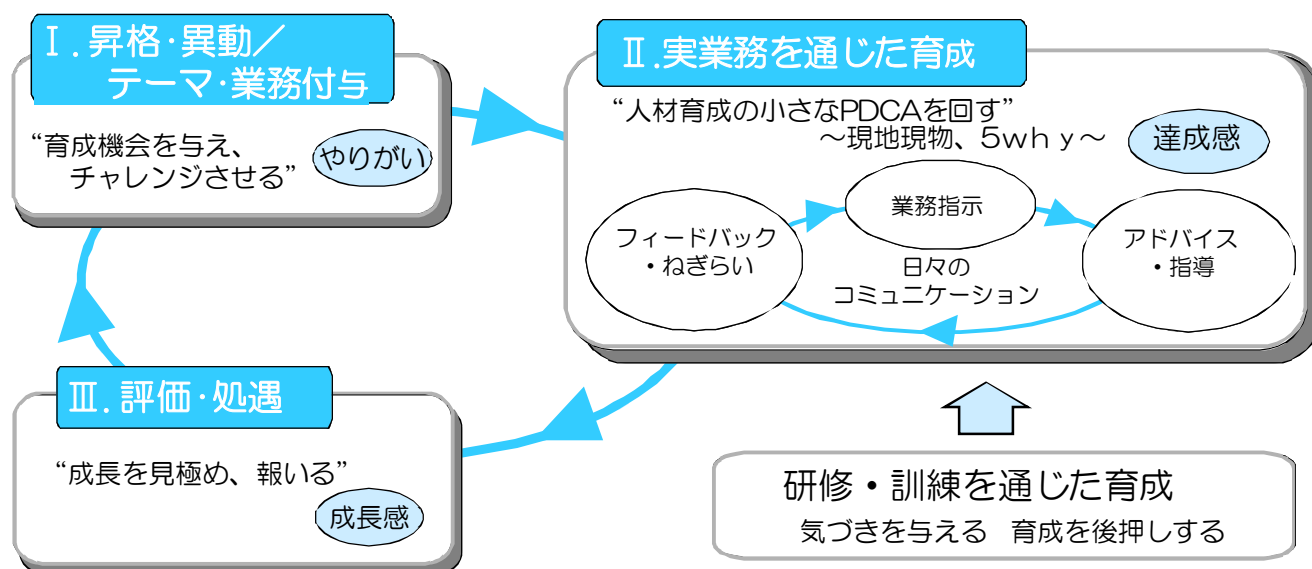
私達は「東北を基盤に 世界一の競争力を持つ 魅力あるコンパクト車をつくる」ことを目指すために、「人が育つ・人を育てる」取組みを進めております。

人材育成の仕組み

人材育成の基本的な考え方は職能資格制度を中心に、人事サイクルをしっかりと回すことです。これを補完する仕組みとして、各種研修制度があります。職場での業務を通じ、上司が部下を一貫性を持って継続的に育成しています。

＜目指す人材像＞

- ・チャレンジ精神に溢れ、自ら育つ、人を育てる人材
- ・現地現物を実践し、知恵を絞りながら改善し続ける人材



● 研修・訓練を通じた育成

1) 新入社員教育

職場配属前に「学生気分の払拭」「社員としての自覚・責任感の醸成」及び「社員としての基礎知識・能力」を習得します。各講師の講義、技能指導に加えて、先輩社員がアドバイザーとなり、団体訓練を通じてルール遵守やチームワークの大切さを学び、また安全運転講習などを行っています。



チームワーク醸成の訓練

2) 特別研修

成長にあわせた研修として、問題解決や人間関係構築（リーダーシップ、チームワーク）のカリキュラムを通じて、現在の資格に求められる能力の確認と、上位資格の役割認識と能力を習得しています。



特別研修の様子

従業員との関わり

3) 管理監督者教育

職場力強化へ向け、人材育成を柱とした職場運営に必要な知識・スキルを習得しています。

からくり改善の
実践教育（組長）



4) 専門技能教育

各職場、各資格層に必要な知識・技能を計画的に教育、育成します。

「専門技能」とは、作業習熟に加えて作業の必要性を理解し、以下の幅広い意味での技能を習得します。

- 問題を解決する力
- 仕組みを作る力
- 指導をする力

基礎知識の
座学教育
(一般工程員)



ボルト締結
技能教育
(一般工程員)



働き方の多様性

多様な人材が生き生きと働ける環境を作り出すことを目指し、当社では「女性の活躍支援」「定年後の再雇用制度」「障がい者の雇用促進」などに積極的に取り組んでいます。

1) 女性社員の活躍支援

育児休職、短時間勤務制度等の整備や企業内保育所の開設により、女性が活躍できる環境の整備を進めてきました。今後は、女性社員の管理職への積極登用や、工場の生産現場で働く女性社員の育成にも積極的に取り組んでいきます。



生産現場で活躍する女性管理職

2) 定年後の再雇用制度

フルタイム・半日の勤務時間の選択制、働きぶりに応じた処遇等に加え、ライフプラン教育を進めるなど、安心して65歳まで働けるよう取り組んでいます。



定年後も後進育成で活躍

3) 障がい者の雇用促進

障がい者を積極的に雇用しており、定着に繋がるよう、職場体験の受入も広く実施しています。

職場体験の様子
(採用前)



従業員との関わり

スポーツ活動支援

従業員が一丸となって応援することを通じ、職場の一体感醸成やコミュニケーション向上を目的に、3つのスポーツクラブ活動に力を入れております。🔗 [詳しくはこちら](#)

🇯🇵 スポーツクラブ活動

🌊 セーリングチーム

1988年ソウル五輪を初めとして、2016年リオデジャネイロ五輪迄、7大会連続出場しています。

現在はRS:X級と470級の2種目で2020年東京五輪出場を目指して活動しています。また、2017年アジア選手権（11月、台湾）では、RS:X級の富澤選手が3位を、2018年ワールドカップシリーズ最終戦（6月、フランス）では、470級の岡田選手が銅メダルを獲得しました。



アジア選手権3位の
RS:X級 富澤選手



ワールドカップ最終戦
銅メダル獲得の470級
岡田選手（写真右）



ワールドカップレースの様子

🏀 ハンドボール部

2012年度より国内最高峰の日本リーグに参戦し、日本一を目指して活動しています。2017年10月の国民体育大会では、宮城県代表として3位を獲得。12月の日本ハンドボール選手権大会においても3位の成績をおさめました。



日本リーグ優勝を目指す



🏟️ 硬式野球部

「仕事も野球も100%」をスローガンに活動し、「第89回都市対抗野球2次予選東北大会」で優勝し、東北の第1代表として初の全国大会に出場。



全国大会出場を決めた野球部



先制適時打を放つ
羽田野選手



2次予選優勝の瞬間

社会性報告

従業員との関わり

社内イベント

従業員同士の一体感の醸成、コミュニケーション活性化を目的に様々な社内イベントを開催しており、イベントを通じて親睦も深まり、心身ともにリフレッシュしています。

TMEJ※フェスティバル

※ TOYOTA MOTOR EAST JAPAN,INC.の略
トヨタ自動車東日本（株）の英文名

宮城、岩手、東富士（静岡）の各地区でフェスティバルを毎年開催し、従業員とご家族、グループ会社、地域住民の皆様と親睦を深めています。2017年度は各地区合わせて、約5,000人が来場され、大いに盛り上がりました。



岩手地区
フェスティバル

社内駅伝大会

社内駅伝大会を毎年開催しています。2017年度は従業員とご家族合わせて、過去最高の約3,500人が参加しました。



職場代表として優勝を目指す



各チームを代表し選手宣誓



職場の仲間からの声援

各地区スポーツイベント

各地区でイベントを開催しています。職場対抗の運動会やソフトボール大会、ヨット体験会などを通じて、従業員のコミュニケーションを図っています。



宮城地区のソフトボール大会



ヨット体験会の参加者



東富士地区の大運動会



岩手地区の大運動会



宮城地区のヨット体験会

【読者の皆様へ】

ご意見、ご要望をお聞かせいただきたく、こちらのメールアドレスに
よろしくお願い致します。

ci_ankan@toyota-ej.co.jp

発行部署 トヨタ自動車東日本株式会社 PE・環境室
〒981-3609 宮城県黒川郡大衡村中央平1番地

お問い合わせ先 PE・環境室 環境グループ
TEL 022-765-6172
FAX 022-765-6308

発行 2018年7月



当社の環境ロゴマーク